

1. 科目名 (単位数)	保育実践演習 (2 単位)	3. 科目番号	SSOT4497
2. 授業担当教員	チームティーチング		SCOT4497
4. 授業形態	演習 保育児童学科教員全員が分担して、ゼミ形式の授業をおこなう。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	保育児童専門演習とつなげて、通年で修得すること		
7. 講義概要	<p>保育児童専門演習に引き続き、保育の専門性を深めるため、グループまたは個人のテーマ、学習目的によって指導教員のもとで主体的に学習する。</p> <p>保育にかかわる理論的研究、実践的研究、実技研修等を、共同活動または、個人活動として行う。実技分野においては、実践における得意分野を作る一助とする。方法は、①特定の研究テーマのもとでの調査、継続観察、保育実践を行い研究結果をまとめる、②保育所・幼稚園・福祉施設などへの参加、保育補助活動を通して、実践力を高める、③新しい保育実践法（音楽、造形、体育、児童文化等）の開拓、研究を行うなどが想定される。最後に研究報告書、実践報告書の作成並びに発表会を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 4年制大学卒業生に求められる専門分野における、自己学習力、研究能力を身につける。</li> <li>2 自分の得意分野、または不得意分野に対して自主的に研鑽を積み、保育者としての専門的能力を高める。</li> <li>3 各指導教員のもとで、小人数による討論、共同作業、共同学習、役割行動等によって、人間関係を深めたり、自己表現をするとともに、実践現場への適応力を養う。</li> <li>4 保育関連の今日的課題、新しい情報への関心を高め、研究資料の検索や文献による研究になじむ。</li> <li>5 個性を十分に発揮し、創造性を養う。</li> <li>6 保育現場において十分活躍できるよう、社会人、専門的職業人としての自覚を養う。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>グループによって活動目的、経過が異なるので、担当教員に任される。</p> <p>調査研究結果報告、実践報告、実技習得成果発表等、多様な形式による課題やレポートが課せられる。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】各担当者によって提示される。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 4年制大学卒業生に求められる専門分野における、自己学習力、研究能力を身につける。</li> <li>2 自分の得意分野、または不得意分野に対して自主的に研鑽を積み、保育者としての専門的能力を高める。</li> <li>3 各指導教員のもとで、小人数による討論、共同作業、共同学習、役割行動等によって、人間関係を深めたり、自己表現をするとともに、実践現場への適応力を養う。</li> <li>4 保育関連の今日的課題、新しい情報への関心を高め、研究資料の検索や文献による研究になじむ。</li> <li>5 個性を十分に発揮し、創造性を養う。</li> <li>6 保育現場において十分活躍できるよう、社会人、専門的職業人としての自覚を養う。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>成績評価の規準 1～6 についての達成度を以下の方法により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各受講生のゼミナールへの参加意欲・態度について、研究成果、ゼミでの発言・共同の実態等から総合的に評価する。(50%)</li> <li>・各受講生のゼミナール参加による知識理解や思考の深まり、研究法の習熟、表現力・創造性の向上について、ゼミで作成した成果(論文、レポートや実技など)とその発表から総合的に評価する。(50%)</li> </ul> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>学生生活最後の学期です。存分に自己発揮して、充実した活動をしてください。</p> <p>仲間や教員とのコミュニケーションを大事にしましょう。</p>		
13. オフィスアワー	各担当者によって提示される。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容		
第1回	<p>幼児体育関連分野</p> <p>現場での体育指導の在り方についての調査、観察研究、実践を通しての指導法の学習をする。</p>		
第2回	<p>造形、表現関連分野</p> <p>造形活動表現をグループで体験しながら保育現場での活用方法を考え、また、子どもを囲むより良い環境の構成についても造形表現の立場から考える。</p>		
第3回	<p>音楽、表現分野</p> <p>音楽表現活動をグループで体験しながら、子どもの発達、保育現場で活用について考えていく。創作オペレッタ、ペープサートによる音楽劇、創作手遊び、曲集作りなどを行う。</p>		
第4回	<p>保育理論分野</p> <p>保育思想、保育制度、海外の保育等に関する文献研究や、現在の保育理論に基づく多様な保育実践法についてフィールドワークをする。</p>		
第5回	<p>保育実践分野</p> <p>保育の「目的」(保育方針)、「保育内容」、「方法」、「教材研究」等保育実践に関する具体的学習活動をする。</p>		
第6回	<p>児童福祉分野</p> <p>児童福祉関係機関への訪問、現場職員との交流、社会地域調査等を通して、福祉の実態に関する学習をする。</p>		

第7回	保育心理分野 幼児の発達に即した保育実践法や保育のあり方等、現場体験を加えて発達と保育の理解を深める。
第8回	障害児保育、特別支援分野 障害のある子どもや「気になる子ども」。統合保育のみならず、病院内保育、施設内保育など障害児療育のさまざまな形態に触れながら、実践的なスキルを学習する。
第9回	小児保健分野 小児保健、小児保健実習で学んだことの総復習、子どもたちの健康を守り、健全な発育を促す対策（感染症、事故防止、救急看護、咀嚼力向上、歯科保健など）として、保育所、幼稚園、地方自治体などの取り組み等文献調査や実態調査を行う。
第10回	保育にかかわる関連分野 幼小連携、学童保育、子育て支援などの諸問題に関する文献及び現場での体験的学習。